

「室戸市浮津地区における自主防災活動を通じたまちづくり  
の展開に向けた調査」

# 報 告 書

高知県地区

財団法人 ハウジングアンドコミュニティ財団

特定非営利活動法人 高知NPO

平成 17年 3月

# 目 次

## 1 ) 活動の背景

- 室戸市の概要
- 都市づくりの目標

## 2 ) 活動の経緯と目的

- 1 . 室戸市重点プロジェクト
- 2 . 高知 NPO「まちづくり」の概要
- 3 . 当団体（高知 NPO）と室戸地区との関わり
- 4 . これまでの活動の概要（当団体関与）
- 5 . 活動を始めたきっかけ
- 6 . 活動の目的

## 3 ) 活動の内容

- STEP 1 資料の準備
- STEP 2 現状の把握
- STEP 3 現状の把握
- STEP 4 問題点の抽出
- STEP 5 対策の立案
- STEP 6 優先順位をつける
- STEP 7 今後の展開について協議

## 4 ) 活動の成果

- 1 . まちづくりを考える機会を提供
- 2 . 防災まちづくりに関する現状把握

## 5 ) 今後の展開

## 6 ) 活動のポイント

- ( 1 ) 活動の人材
- ( 2 ) 活動のための資金調達
- ( 3 ) 活動のためのネットワーク支援
- ( 4 ) その他

## 1) 活動の背景

---

### 室戸市の概要

#### 1. 沿革

本市は、大化の改新の後、室戸郷が置かれて以来の古い歴史を持ち、弘法大師による金剛頂寺、最御崎寺の建立などにより、東土佐文化の中心地として栄えてきました。また、藩政時代には、網捕鯨の振興、津呂・室津港の開削が行われ、水産都市・室戸の発展の礎が築られました。

明治22年4月の市町村制実施により、佐喜浜、津呂、室戸、吉良川、羽根の5村が誕生し、同43年の室戸村を皮切りに、昭和18年までに羽根村以外の4村に町制がしかれました。昭和33年9月25日には新市町村建設促進法に基づき5カ町村合併が各町村議会で議決され、昭和34年3月1日に5カ町村が合併して「室戸市」が誕生し、現在に至っています。

#### 2. 地形・気候

本市は県都高知市の東方78kmに位置しており、総面積248.19km<sup>2</sup>で、東西18.6km、南北27.0kmのほぼ逆三角形を描いて太平洋に突出し、北東に東洋町、北西には奈半利町、北川村が隣接しています。

北西の境界部には、須川山(標高787m)をはじめ、梅の峠(標高876m)、装束峠(標高1083m)、野根山(標高983m)が控え、北東には小坂山(標高784m)が、また管内を南北に縦走する四国山系の支脈には鬼ヶ丸、笠木山、大角山、四十寺山、尾垂山など山々が連なっています。これらの山々を水源地として大小の川があり、南西に、あるいは南東へと地層走向に従って流下しています。

室戸岬以東の主な河川としては、佐喜浜川があり、以西には、室津川、東の川、西の川、羽根川が流れ、最も西に位置する羽根川は市内随一の流路をもち、その延長は34kmに及んでいます。これらの河川は、いずれも太平洋に流入し、流域には沖積層の平野が散在して農耕地を形成しています。

本市が低緯度に位置していることから、北西の季節風となって吹き寄せる大陸性気流が表日本の背梁山脈及び四国山脈でさえぎられ、南は黒潮流れる太平洋に面しているため、気候は非常に温暖で、しかも四季の調和がよくとれています。

冬期には晴天が多く、降雪は極めて少ない土地柄ですが、全国的にも多雨地帯に属し、高温多湿で作物の育成に適しています。一方で、台風の常襲地帯であることから、夏から秋にかけてはしばしば暴風雨の猛威にさらされ、作物及び諸施設が受ける被害は大きく、また、水産業をはじめ産業経済面で受ける影響は非常に大きなものがあります。

### 3．人口

本市の人口は、遠洋漁業の繁栄などにより、合併直後の昭和35年には30,498人と3万人を超えていました。その後、若者層をはじめとする人口流出に加えて、昭和60年以降は人口の自然減（死亡数が出生数を上回る状況）が常態化し、人口の減少が続いています。平成7年の人口は21,430人となり、昭和35年と比較して9,068人（29.7%）の減少となっています。また、5年毎の人口減少率をみると、昭和60年以降は8%台と、以前よりも減少率が大きくなっており、平成12年10月1日現在の県推計人口では2万人を割った状況になっています。

平成7年の高齢者比率は22.7%と、高知県内市部平均の18.0%より4.7ポイント高く、その後も、高齢化が一段と進む傾向がみられます。

### 4．交通

本市においては、国道55号と県道椎名室戸線が高知市や東洋町と本市を結ぶ幹線道路となっており、国道55号から県道や市道が延びています。

平成10年春の明石海峡大橋の開通及び高速道路の網の整備が進み、四国も本格的な広域高速交通時代に突入しました。しかしながら、地域高規格道路阿南安芸自動車道が奈半利町から東洋町を直接結ぶ計画となっており、都市機能の充実ならびに観光・交流産業の振興のためにも、地域高規格道路へのアクセス道路の整備が急がれます。

ごめん・なはり線（阿佐線）については、本市までの延伸を要望してきましたが、平成14年に奈半利町まで開通し、奈半利駅と甲浦駅との間に計画性の高いバス路線を確保することが必要となっています。

### 5．産業

本市の産業は、立地条件、資源的条件、気象条件などから第一次産業が主な産業でしたが、農林業を中心に第一次産業の就業者の割合は減少し続け、反面、第二次、第三次産業の就業者の割合は増加しており、平成7年の就業構造は、第一次産業が23.3%、第二次産業22.8%、第三次産業53.9%の比率となっています。今後も、この傾向は続くものと思われます。

第一次産業の中心である水産業は、国際的な協調減船、操業海域の規制、漁獲量の制限、若年労働力の流出など内外ともに厳しい状況にあり、資源外交を推進しながら生産基盤や漁場環境の整備など、経営安定のための施策を進めています。また、沿岸漁業は、一本釣や定置網漁業が主体ですが、資源の減少、若年の漁村からの流出、漁業者の高齢化などの問題を抱えているため、資源管理型漁業や漁場の造成、後継者対策などのさらなる推進が必要とされています。

農業は、温暖多雨な気候を活かして、東部では水稻と果樹、西部では施設野菜、畜産や露地野菜、山間部では水稻を中心としています。山地が多く、農家1戸当たりの平均耕作面積は76a（平成11年）と、小規模農家が大部分を占めています。

総面積の約9割を占める森林は、その大半が民有林ですが、林家1戸当たりの平均所有森林面積は狭く、小規模経営が大半を占めています。「土佐白炭」として古くから知られる備長炭は、佐喜浜、吉良川両地区で製炭され、県内の主要産地としての地位を保ち続けており、生産性の向上と販路の拡大に努めています。

第二次産業は、平成10年現在、窯業・土石製造業、衣服・その他の繊維製造業、鉄鋼業が中心となっており、2～3の工場を除いては、家内工業の域をはず、市内の需要を満たす程度にとどまっています。しかし、海洋深層水関連で、数社が起業または新規立地しており、今後の企業活動の展開が期待されています。

第三次産業のうち、商業は、卸売・小売商店の約8割が個人商店で、従業員4人以下が8割以上を占めています。これらの個人商店は、大型店の進出や消費者の買い控え、購買力の流出などの影響を強く受けており、**商業活動を工夫し経営を改善することが必要**になっています。

観光は、室戸阿南海岸国定公園に指定されている室戸岬を中心とする海岸線をはじめとして、弘法大師の遺跡、亜熱帯植物群、ホエールウォッチング、学術的価値のある地質などの豊富な観光資源に恵まれ、県東部地域の観光拠点としての期待が高まっています。しかしながら、観光基盤の開発整備の立ち遅れと交通輸送網の未整備により、これらの資源が有効に活用されておらず、観光入込客数は平成3年をピークに減少し、現在は30万人を割り込む状況にあります。

このような現状を踏まえ、本市の自然的立地条件の特性を生かしながら、地域に根ざした産業を振興することにより、雇用を確保し、所得水準の向上を図ることが必要とされています。

## 都市づくりの目標

本市は、「うるおいと活力に満ちた海洋文化都市」の実現に向けて、市民一人ひとりが、自ら考え、自ら取り組み、共に力を合わせながら推進していく、都市づくりの目標理念として次の3つを掲げます。

### 1. 人が元気な室戸

21世紀に明るい未来を切りひらいていくためには、**新しいものを生みだし**、歴史や伝統のなかから、**価値あるものをよみがえらせる**ことのできる豊かな感性や創造性と、多様な個性と価値観を認めることができる開かれたところが必要です。

本市は、固定観念、差別意識はもとより、日常生活のなかにある個人の自由な活動を妨げる心理的、物理的、制度的、文化的なさまざまな垣根や障壁を積極的に取り除いていくことにより、個人の尊厳が重んじられるようにしていきます。

しかも、**安全で安心できる生活**や、ゆとりある環境のなかで、みんなが、**文化活動やスポーツ・レクリエーション活動**を楽しんだり、生涯にわたって学ぶことにより、**自己実現を図り**、創意や工夫、自由な発想を生かしながら、新しい価値や技術を生みだしていきます。

このように、一人ひとりが、いきいきと**主体的に行動**し、**共に参画**し、支え合いながら、社会

のさまざまな分野で大きな役割を担い、世界にも貢献していく、人が元気で開かれた室戸づくりに努めます。

## 2．地域が輝く室戸

地域としても、このように元気な人びとが、自由に、いきいきとその創意や個性を発揮できるような環境と社会づくりが必要です。

本市では、情報を公開し、互いに夢を共有しあいながら、地域づくりのパートナーとしてのまちづくりや産業おこしに取り組みます。

また、こころの豊かさやゆとり、自然とのふれあいを大切にしていくため、豊かな海と美しい海岸線をはじめ、山地とその間を流れる河川、海岸近くの台地や里山などの自然を大切に保全し、景観や快適な生活環境を整備することにより、美しい地域を継承していきます。

さらに、地域の特性や歴史が息づく独自の文化をみがき、高めるなかで、個性あるまちづくりを進めていくとともに、地域の自然や文化を活用しながら、新しい発想で特色ある産業おこしを推進していきます。

こうした地域の魅力を求めて、さまざまな地域から人や企業が集まることにより、互いに触発し合うなかから、新たな価値が生まだされてくる、地域が輝く開かれた室戸づくりに努めます。

## 3．交流・連携の活発な室戸

市内の各地区間、市町村境や県境はもとより、海外との障壁を超えて、さまざまな人や地域が交流し、互いに個性をみがきあうことで、独自の価値や機能を高めていきます。また、互いに連携し、補完し合うことによりそれぞれの抱える問題を広域的に解決していくとともに、それぞれが独自の役割を果たしながら、連携することにより、全体として大きな活力をもつ室戸をつくりあげていきます。

さらに、生活のすみずみにまで、世界の情報が入り、世界の人々と関わり合うこれからの時代に、室戸市民は、地球市民の一員としての自覚を持ち、漁業をはじめ、文化、スポーツ、経済などさまざまな分野で積極的に交流に努めます。さらに、市民や行政が国際的な協力を行い、地域の特性を世界に向けて情報発信しながら、世界に通用する室戸づくりを進めます。

このように、人や地域の交流を通じて、それぞれの個性や価値を高めるとともに、国内外に情報発信し、地域の連携を強めて互いに補完し合い、さらに、全体として交流・連携することにより、大きな力を発揮できる世界に開かれた室戸づくりに努めます。

室戸市総合振興計画より

## 2) 活動の経緯と目的

---

### 1. 室戸市重点プロジェクト

室戸市における、平成 22 年度を目標とした基本構想には、3 つの重点プロジェクトが掲げられている。

「人が元気な室戸」推進プロジェクト

- ・子どもの遊び場や公園の整備、くじら資料館への支援など

「地域が輝く室戸」推進プロジェクト

- ・海洋深層水利活用産業の促進、自然と共生する海岸整備など
- ・具体的には、平成 18 年春、(仮称) いやしの里公園 がオープン予定

「交流・連携の活発な室戸」推進プロジェクト

- ・ **港湾背後地の効果的な活用** による体験型交流事業の推進など

具体的には室戸岬新港の背後地で、麻布大学による イルカセラピー や、室戸少年自然の家による、ヨット、カヌー、シュノーケリング体験 などが実施されている。

### 2. 高知 NPO 「まちづくり」の概要 (四国南東部における **新しい公共のかたち** の模索)

東部会員の「まちづくり」への想い

大量生産・大量消費の「**規格型社会**」に、流されていた日本人の意識が、自然との共生、オンリー1 などの言葉に象徴されるように、地域固有の資源を見つめる「**企画型社会**」へと数年前から少しずつ変化し始めました。「さてよ、このまま進んでもいいのかな」同じ頃、人々の意識の変化と同様に、我々も従来の社会の仕組みに、疑問を持ち始めていました。地方から人・物・金を吸い出し、一局集中化をたどっていく中で、将来は明るいものになるのだろうか。心の中の答えは「NO」でした。

であるならば、自分たちの目指す幸せとは何なのか。どのように自己実現したいのか。と自問自答しつつけていた時、高知県東部出身である、我々の心の中に漠然と、**二つの想い** が生まれたのです。

四国南東部を、**世界の人々が「行ってみたい」と思う** 地域にしたい

自然をうまく観光に活かして、世界中の人々を魅了する国(ニュージーランドやハワイ等)のように、生まれ育った地元、四国南東部を世界中の人々が、行ってみたいと思う地域にしたい。

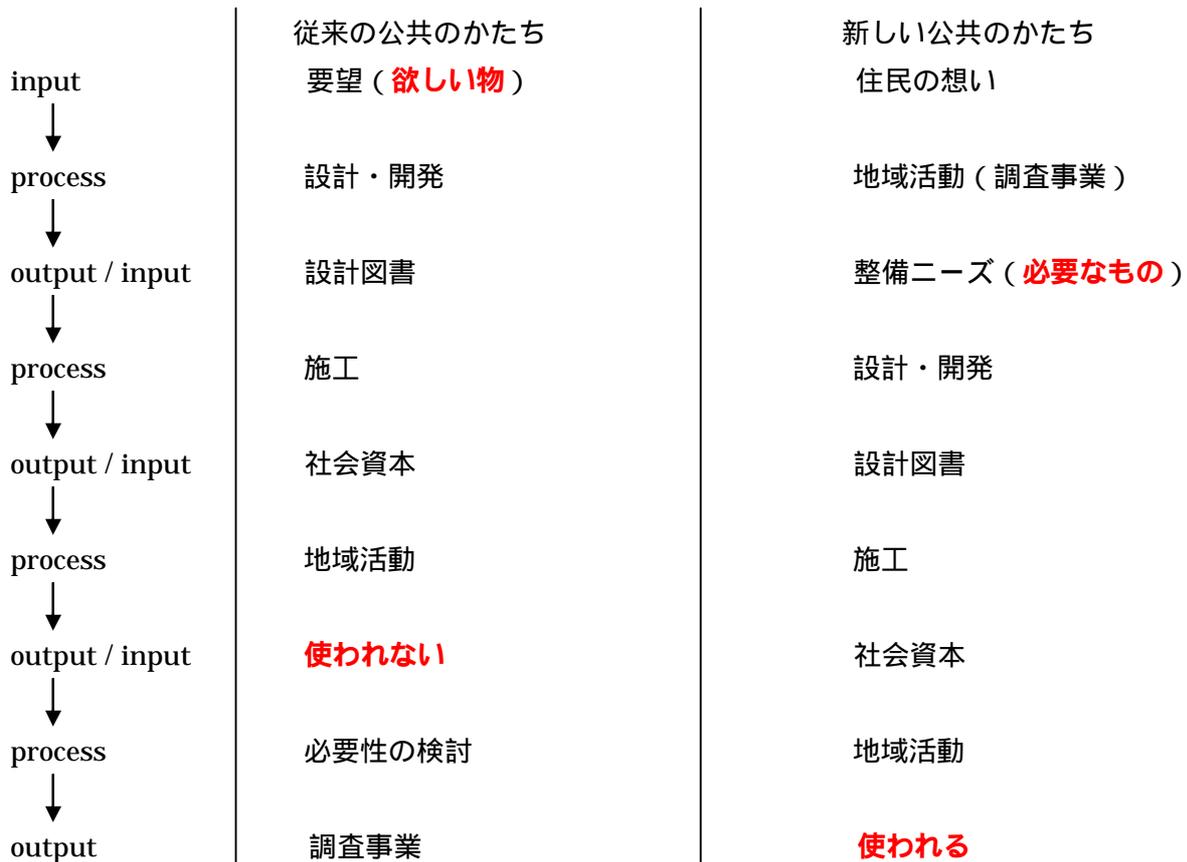
親子で **未来(ゆめ)を共有** できる「まちづくり」がしたい

未来(ゆめ)を長期ビジョンにし、お父さんがここまで進めたから、僕はここまで進めたいというような親子でつなぐ「まちづくり」がしたい

## 基本的な方向性 ( P l a n )

### 《 Reengineering: 業務革新 》

時代の転換期においては、プロセス(業務または活動)を根本的に考え直さなくてはならない。「新しい公共のかたち」を模索する我々は、社会資本供給のプロセスを以下のように理解した。



川の流りに例えると、今までの活動は、下流域での活動であり、これからは、「源流域」に踏み込んでいくのだから、未知の部分が多く、「現状打破」の取組みとなる。

### 《 break through: 現状打破 》

従来の枠組みにとらわれず、現状を打破していくためには、それぞれの組織(団体)や個人が自立している必要がある。すなわち、従来のように物事を部品(担当)で考えるのではなく、プロセス全体(企画・実行・評価・改善)を頭に入れた上で、役割行動を起こさなければ、プロジェクトは成就しない。地域でいえば、四国南東部のビジョン(長期構想)を共有した上で、それぞれの地域活動(中芸、室戸などで中期・短期の活動)を進めなければ、有効なシステムとはなり得ない。

したがって、我々は大まかに四国南東部の将来をイメージし、それぞれのプロジェクトは、稚拙でも自分たちで、企画・実行・評価・改善を行う事とした。

## 《 再生と活用》

今あるもの（人、もの、自然、文化、伝統、芸術、社会資本等々）を活用したまちづくり（地域再生）が考え方の基本。

## 《 身の丈に合わせる → だぶだぶの服を着ない》

都会の真似をして背伸びするのは、体より大きい“だぶだぶの服”を着ているようなもの。身の丈を考え、地域の特色を活かした「オーダーメイドのまちづくり」を目指す。

### 3．当団体（高知NPO）と室戸地区との関わり

沿岸漁業不振が続く中、平成11年高知NPOは、港町の復活・再生を目指し、地元住民及び小・中学校、室戸市、高知県、地元企業等と一体となり、「室戸岬漁港を考える会」を立上げ、継続的にまちづくり活動を行い、現在に至っている。

### 4．これまでの活動の概要（当団体関与）

#### 【室戸地区関連活動】

- [H11．10月] 室戸岬漁港の利活用を考えるワークショップなど
- [H12．11月] 室戸岬漁港における漁港・漁村活性化対策調査事業
- [H14．5月] 室戸岬漁港交流広場設計
- [H14．10月] 奈良師海岸「いきいき海の子、浜づくり」ワークショップ
- [H15．10月] 室戸岬新港で「おさかな祭り」開催
- [H16．2月] 室戸岬新港「とろむのあしゆ」プロジェクト参画
- [H16．4月] 室戸岬新港背後地で、海の駅「とろむ」開業イベント参画
- [H16．7月] 室戸岬新港背後地に、イルカセラピーのための休憩所（ログハウス）建設  
（大正町ボランティア団体と協力）
- [H16．11月] 室津港・室戸岬新港・室戸岬での「みなと探検隊」に参加  
（WAVE主催）
- [H17．1月] 室戸市浮津地区で「安全・安心なみなとまちづくり」シンポジウム開催  
具体的に得られた効果  
室戸岬新港背後地の利活用が進み、交流人口が創出された。  
港の背後地で、漁業以外の産業がスタートを切った。

#### 【防災関連活動】

- [H16．1月] 防災をテーマに中田教授による南海地震の講演会を開催  
（奈半利町保健センター）
- [H16．2月] 自主防災をテーマに奈半利町上長田地区で図上訓練を実施

具体的に得られた効果

奈半利町上長田地区で自主防災組織設立

### 【その他の活動】

- [ H14 . 8 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 1** 青いサンゴ礁認知計画  
全国発信をテーマに地域資源「サンゴ礁」を P R  
開通したごめん・なはり線も協賛
- [ H14 . 10 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 2** 青いサンゴ礁活用計画  
継続をテーマにグラスボート船でのサンゴ観賞を事業化  
高知国体に合わせて吊広告で P R
- [ H14 . 10 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 3** 考える人創出計画  
流域連携をテーマに周辺市町村のまちづくり団体とシンポジウム
- [ H15 . 3 月 ] 賑わいの創出をテーマに奈半利観光開きに参画
- [ H15 . 4 月 ] 遊休施設の活用をテーマに長期滞在施設を安芸市に提案
- [ H15 . 6 月 ] I T の普及と情報発信をテーマに「パソコンでサンゴ礁を見よう」開催  
( 奈半利町活性化センター )
  
- [ H15 . 8 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 4** 海辺の自然学校 i n 高知  
交流をテーマに室戸・奈半利連携で宿泊メニューを開催  
W A V E の委託事業
- [ H15 . 9 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 5** 「発想の転換」世界の神山に学ぶ  
協働をテーマに神山町国際交流協会の大南氏を迎えセミナー開催  
奈半利町の職員研修を兼ねる
- [ H15 . 11 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 6** 「みなとオアシス調査祭り」  
みなとまちづくりをテーマに全国都市再生モデル調査に参画  
みなと未来会議としてワークショップにも参画
- [ H16 . 4 月 ] 自立をテーマに天然資源活用委員会事務局移転 ( 奈半利町活性化センター へ )
- [ H16 . 5 月 ] 国際シンポジウムに先立ち「奈半利サンゴ地元先行発表会」を開催
- [ H16 . 8 月 ] **奈半利川文明再生構想 S T E P 7** 海辺の自然大学  
奈半利川文明の旅をテーマに広域連携と事業化を模索  
3 度の台風襲来により一括開催を見送る
- [ H16 . 8 月 ] 広域連携をテーマとした V ルート視察ツアーに参加 ( 日和佐 ~ 安芸 )
- [ H16 . 8 月 ] みなとまちづくり構想検討調査に着手 ( 高知港と奈半利港 )  
( 四国地方整備局 高知港湾・空港整備事務所より受託 )
- [ H16 . 11 月 ] 「みなとオアシス奈半利」登録記念イベントに参画  
室戸から「黒潮号」、高知から「とさぎり」が奈半利に来航  
まちづくりの取組み姿勢を、「みなとオアシス奈半利」八策として発表  
奈半利港と北川村をつなぐ物語「維新の夢 再び」を示唆

具体的に得られた効果

平成16年8月25日「みなとオアシス奈半利」に登録認証（国土交通省四国地方整備局）

## 5. 活動を始めたきっかけ

視点1：室戸市の計画に対して

### 室津港（避難港）ができる

室津港は、高知と関西圏域を結ぶ航路における避難港として位置づけられており、その整備が急がれます。緊急課題となっている避難港としての整備を推進すると共に、国道とつながる臨港道路や後背地の水産加工・流通施設などの整備を推進します。

#### 主な施策

- ・ 避難港としての整備の推進
- ・ 後背地の有効利用の推進

### 都市機能の整備充実

全市的な土地利用、都市機能の配置状況などの総合的な観点をふまえつつ、暮らしやすく魅力的な市街地の整備や再開発を進めます。

#### 主な施策

- ・ 市街地の整備や再開発（中心市街地活性化の推進など）の促進

室戸市総合振興計画より



視点1：私たちはこうしたい

### オーストラリアのスポーツチーム室津港に来航（将来イメージ）

将来、世界の人々が、四国南東部に「行ってみたい」と思った時、直接この地域に入り込める可能性があるとするれば、現在建設中の室津港に船で来航するしかない。逆に言えば、四国南東部が世界に開くための社会資本が室戸に出来ているのである。

したがって、我々の未来（ゆめ）を実現するためには、室津港背後地の活性化「みなとまちづくり」は非常に重要な意味を持つ。この地域が、今のまま何の変化もしなければ、おそらく、20年後の室津港は、避難した船の乗組員が、船の中で嵐の過ぎ去るのを待つだけの港になる。

しかしながら、豊富な地域資源「四国霊場（東寺・津寺・西寺）乱磯遊歩道、奈良師海岸、室戸少年自然の家、風情ある町並み」などを活かし、「みなとまちづくり」を続けたならば、20年後、成長した「みなとまち室戸」にとって、「新室津港」はけっして、だぶだぶの服ではなく、体（地域）にぴったりの服（社会資本）になっているはずである。

住民が支えるみなとまちは、みなとまちづくりの「あるべき姿」である。だから我々は、まだ見ぬ「新室津港」の必要性を確認する活動にチャレンジしていきたい。

## 視点2：室戸市の計画に対して

### 災害に弱い「地形・地質」

室戸市は、その地形・地質的特性から、**地震、台風**、豪雨などの自然災害に対して脆弱であるため、防災対策の充実・強化は、緊急かつ重要な課題であり、今後とも一層の推進が必要とされている。

生活様式の多様化などにより、各種の建築物の高度化、密集化及び各種危険物施設などが増加し、災害は複雑多様化、大型化の傾向を示しています。これに加えて、過疎化、核家族化、高齢化が進み、**初期消火と早期避難の遅れが被害を大きく**する可能性があります。

室戸市総合振興計画より



## 視点2：私たちはこうしたい

### 安全・安心なみなとまち

インド洋大津波、タイで邦人死亡確認。高知新聞の見出しであるが、けっして、他人事ではない。浮津地区においても、地震による密集市街地の家屋倒壊、急傾斜危険地域の崩壊による家屋倒壊、あるいは、津波による大災害など、いくつかの危険要素がある。

「世界の人々が行ってみたい」と思う国を目指すためには、「安全・安心」が重要なキーワードであり、新室津港の「みなとまちづくり」には、初期段階から**防災の視点**を入れて行きたい。

## 視点3：室戸市の計画に対して

### 市民の参画・民間活力の導入活用

#### 1. 市民の参画

市民が積極的に参画できるシステム作りを行い、**市民と協同で計画**を実践し、自助、互助、公助の考え方のもと、役割分担を明確にして、事業の展開を図ります。

#### 2. 民間活力の導入・活用

効率的かつ効果的に事業を実施するため、**民間の持つ多様なエネルギーの公共分野への導入**を図るなど、民間活力の活用に努めます。

室戸市総合振興計画より



## 視点3：私たちはこうしたい

### (仮称)浮津NPO設立支援

まちづくりの想いをかたちにしていくためには、浮津地区でも奈半利地区のようなSTEPを踏んでいく事になるが、まず第一に、**活動を担う団体が必要**である。そのために、浮津地区の住民がまちづくりを考えるきっかけとなる事を期待し、本調査事業にエントリーした。

## 6 . 活動の目的

みなとまち室戸を再生し、

将来「世界の人々が行ってみたい」と思う地域にするため

立ち寄った人々が安心して滞在できる環境をつくるため

まずは、「防災まちづくり」のワークショップにおいて、住民自身がまちづくりを考えていくきっかけを提供する

さらに、今後、室戸市における都市づくりの、目標に貢献していくために、(仮称)浮津NPO 設立を支援することを目的とする。

### 3) 活動の内容

---

目的に向かうべく当団体は下記のステップで第一歩を踏み出した

#### STEP 1 資料の準備 (12月～1月)

住宅地図から、対象部分を抜粋 貼り合せ、白地図を作成  
地域の現状を知るための基礎資料として住宅地図をコピーし原始的な白地図を作成した

白地図に基づき、現地 (密集市街地) を踏査し、写真撮影  
さらに現地をイメージしやすくするため当該地区を回り路地や海岸等を写真撮影した



対象地域の地盤高、急傾斜危険地域を調査 (行政資料による)  
地域の現況をもう少し詳しく調べるため地盤高崖崩れの危険地域を調べた

津波による浸水予想図の調達及び、ヒアリング (高知県)  
高知県危機管理課とのヒアリングから  
現在県の想定では浮津地区の津波高さがTP3mとなっており浸水予想範囲は狭いと想定されている。  
ただ河川の遡上に対する検討がされていないので、16年度事業で実施する予定。  
・16年度事業では、地震発生から10分後、20分後という場合に、くわしい想定がされる予定。  
県は南海地震単独で考えているのに対し、中央防災会議は東南海同時地震を想定しているため、津波の高さが異なっている  
現在の県の想定では、浮津地区は津波の危険性がほとんどないことになるが、念のため国道付近まで避難する方が良い。  
・自主防災組織の設立は大事なことなので是非協力をお願いしたい。

白地図に現地調査写真を張付け、6mライン、8mラインと急傾斜危険地域を記入し、ベース図を作成  
住民が地域の現状を、イメージしやすくするため、最低限の情報を、一枚の図にし、ワークショップのベース図とした



南海地震に関する津波シミュレーションなどの啓発ビデオを調達 (安芸市まちづくり課)

## STEP 2 現状の把握 ...下打合せ(1月)

室戸市における防災活動の現状をヒアリング

室戸市総務課とのヒアリングから

- ・浮津地区は、防災活動について盛り上がりがある。
- ・市としては、自主防災組織設立を推奨するため、説明会を実施済み。
- ・避難場所及び避難経路については、浸水、急傾斜危険地域を考え合わせ、自主防災組織で検討が必要。
- ・住民も市も、図上訓練等の要領を得ていないため、時間がかかっている。
- ・中学校の校舎が古いことと、堤防のすぐそばに保育園があることが気になり
- ・食糧備蓄については、有効期限の問題から準備が難しく、毛布等の用意に留まっている。

対象地域の常会長等による下打合わせ

- ・啓発ビデオでは、津波高さが12mとなっているが、ベース図では6m～8mのラインを表示してある。
- ・私の家は6mだと大丈夫だが、8mだと浸水する。12mだとどこにも逃げ場はない。
- ・津波高さが12mだと堤防を超えるので、対策も大変なものになる、国・県の財政状況を考えても実現が難しいと思われる。水門等により河川の遡上に対応できないものか。
- ・防災について各地区の常会で話し合いをしたいと思う

## STEP 3 現状の把握 ...住民(2月)

対象地域の住民による図上訓練



WSの進め方を説明



ベース図に基づき、浸水及び家庭倒壊被害をイメージ

## STEP 4 問題点の抽出 (2月)

現状把握により 各地区毎 (班毎) に防災上の問題点を抽出

**三番町東町 (63世帯、9班、128名)参加者6名**  
問題点抽出できず



**西町西 (83世帯、6班)参加者6名**

避難場所が急傾斜地になっている。急傾斜地の安全対策 (浮津二番町)

山が崩れてくる (浮津三番町)

通路が狭い、通路のブロック壁の崩壊

電柱が倒れる

谷の出口の水門がない。谷の防災対策 (トウノ谷チヨウセン寺)

頭上より物が落ちてくる

屋根付きの避難所がない

食料倉庫がない。食料の保存が出来ない



**宮原、西町東 (115世帯、9班、270名)参加者3名**  
昭和56年5月以前に建てられた木造建物65戸

古い家とへの点検

老人が多いのでその対応

常会の各班で責任を持つ 人員の確認をする 行動する

道が狭い



**三番町西町 (84世帯、7班、171名)参加者5名**  
昭和56年5月以前に建てられた木造建物60戸

中学校のプールのブロック壁が倒れた場合保育園児の逃げ道が南側の堤防しかない

三番町周辺の雨水等の排水施設が一ヶ所の為、排水口が狭い ヤート設置の為水はけが悪い (波の進入時等)

道路の水が排水出来ないと逃げ道がない



**西町中の上、中の下 (103世帯、9班、265名)参加者5名**

避難道路の確保 夜・昼など

子供が保育園へ行っているが逃げ道がないのが心配

平日、昼間介助を要する人の救助

留守にする時声がけする

留守にした家の消息

家族の消息



## STEP 5 対策の立案 (2月)

抽出した問題点をもとに、自主防災組織での対策を協議 (自助・互助)

### 三番町東町 (65世帯、9班)

自分の家のチェック (強度の補強・寝室に家具を置かない)

各班で逃げ道のチェック

各班で声を掛ける人を決めておく

隣の家の人の寝てる場を知る



### 西町西 (82世帯、6班)

家庭内での安全対策

両隣2軒の安全確認の徹底、訓練

避難場所の見直し (現行避難場所が山崩れ危険ヶ所になっている)

防災グッズの備え (ラジオ、電池、運動靴、ヘルメット、マット、タオル、風呂敷、水、食糧など)

若者の救災特別訓練



### 宮原、西町東

お互いに声を掛け合って行動する

常会で常時訓練

常会で責任を持って人員の確認をする



### 三番町西町 (85世帯、7班)

中学校の隣の排水施設の清掃

### 西町中の上、中の下

防災グッズを用意する (水・インスタント食品等)

避難道路等の点検

介助を要する人を把握しておく事

近所同士声かけ (呼び掛け)



提案または要望していくことを協議 (公助)

### 三番町東町 (65世帯、9班)

中学校の塀が古くて危ないので直してほしい

中学校の校舎の外階段に手すりをつける。幅広くゆるやかに踊り場を作る。

避難場所の八王子の耐震調査をしてもらいたい。階段をのぼりやすくしてほしい。

八王子宮の裏山の補強

### 西町西 (82世帯、6班)

山の崩壊の調査 高知県に要望する

トランスの安全対策 (電柱) 四国電力に要望する



谷の防災対策 高知県へ要望する  
水門の整備 高知県へ要望する  
屋根付きの避難場所の整備  
防災用の食糧の確保  
屋根付きの避難所がない(室戸市へ)中学校が避難場所  
出来るようにする



### 宮原、西町東

瀧本病院の跡地に緊急避難所の設置  
武井石油店より中道寺迄の道を補修(広く)  
道路が狭いので側溝の補強



### 三番町西町(85世帯、7班)

室戸には防災無線がない。1ヶ所あるが聞き取れない  
海からの川への逆流防止の水門の設置  
(一番低い)排水口(浜に出す)  
最下部が狭い  
人が入れないくらい複雑で清掃しにくい  
中学校改築時に道幅を増やし、排水施設を大きく  
奈良師の浜の海水浴場  
沖に室戸より行当までの堤防



### 西町中の上、中の下

堤防補強等  
西町専用の放送 施設(早急)  
保存食 保存水 3日分用意(行政)  
医薬品の用意  
救急救命講習会を開催(修了証)班ごとに何人か  
避難施設(津波対策)

## STEP 6 優先順位をつける(3月)

- 各常会に持ち帰り重要度及び優先順位をつけた。
- 各常会がつけた順位は、 、 ...で表示

## STEP 7 今後の展開について協議(3月)

- 自主防災組織と市の考え方をすり合わせ、おおまかに進め方を確認(常会長 総務課 高知NPO)



## 4) 活動の成果

---

### 1. まちづくりを考える機会を提供

住民自身が災害時の被害を具体的にイメージすることができた  
自主防災組織としてどのような事ができるのか住民自身が考えた  
ワークショップを通じて、防災まちづくりの進め方(手順)を学んだ  
各地区ごとに個別の問題と、地区全体での重要問題があることがわかった  
地域活性化と防災を合わせて考えるまちづくり活動が必要であることを確認できた  
浮津地区住民は、まちづくり活動に参加する意欲があることを確認できた

### 2. 防災まちづくりに関する現状把握

今回の調査を通じて以下の事が確認できた

#### 防災マップ

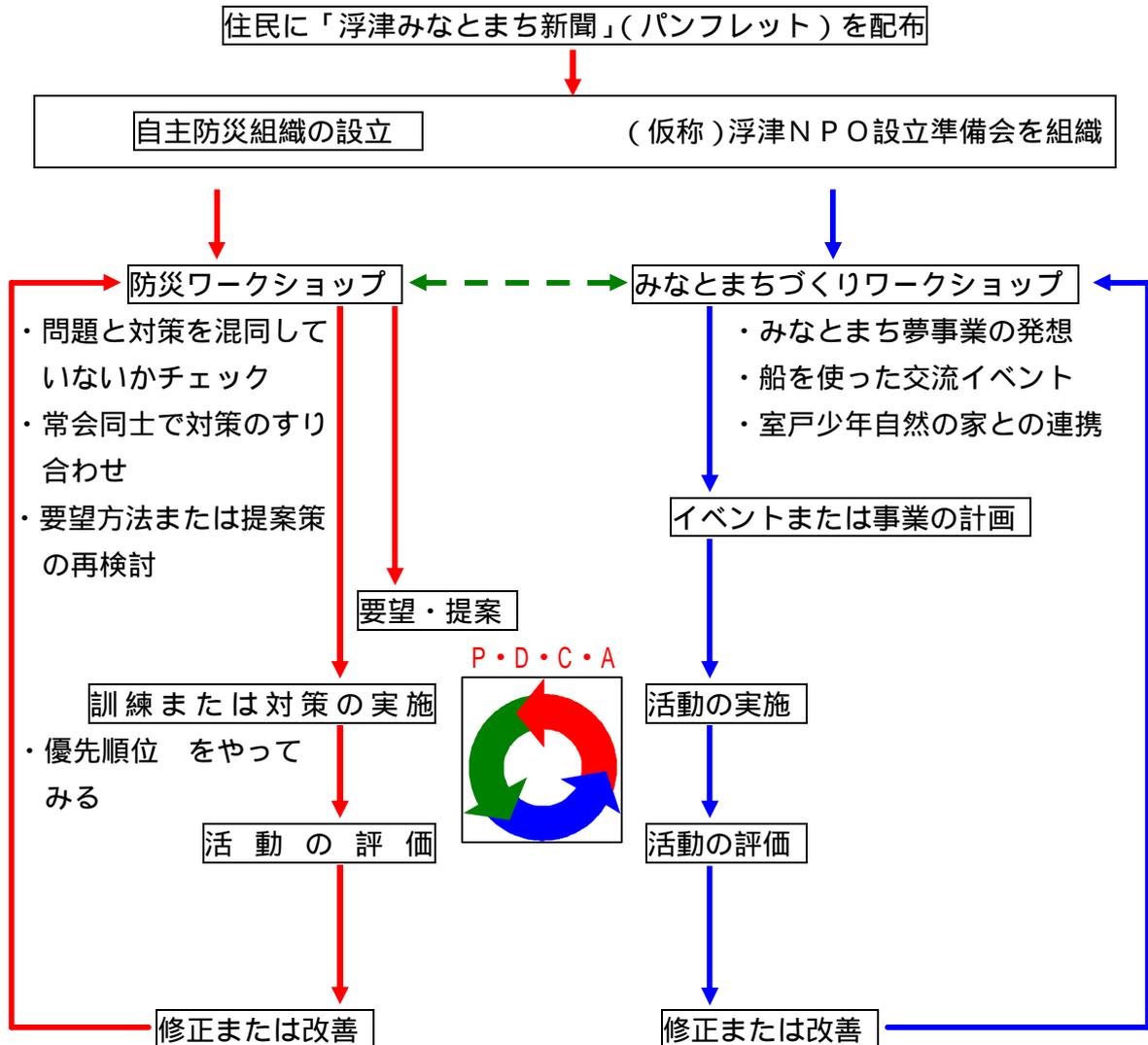
自主防災組織を中心に防災マップがつけられている  
高知県主催で危険箇所マップが作成されており配付のため増刷中  
津波発生時河川遡上による浸水予想図は16年度末または17年度始めに公表予定(高知県)  
室戸市では現時点で高知県の予想図を上回る浸水の予想があるため10m以上の場所に避難することを推奨している

#### 情報、訓練

浮津地区では避難訓練を一回実施済み(2月6日)  
室戸市の防災無線について高知工科大生よりヒアリングあり

## 5) 今後の展開

目標：以下のまちづくりプロセスを、平成17年度は、1サイクル実施したい



### 《防災まちづくり具体のテーマ(検討議題)》

- 防災無線の個別情報発信を検討
- 津波避難施設の設置場所等の検討
- 住宅耐震補強をどうするか
- 避難通路はあるのか?ないのか?
- 逃げ場所はあるのか?

### 《成功の情景》

- ・浮津地区に緊急避難施設が出来た。日常は、浮津NPOを中心に多方面に活用されている。

## 6) 活動のポイント

---

### (1) 活動の人材

今回の活動では

- ・地域の推進力浮津地区常会（町内会）

浮津地区は、常会を中心に非常にまとまりがあり、住民自身が人間関係が良いと考えている。（安全・安心なみなとまちづくりシンポジウムのヒアリング結果より）

- ・挨拶のできるまち室戸

高知NPOの担当者が現地調査等で、地域を回っていた際、「こんにちは」と地元の方が気軽に声をかけてくれた。田舎とはいえ、このような雰囲気は近年少ないのではないだろうか。

- ・女性が元気な「みなとまち」

遠洋漁業が盛んであった歴史の名残か、浮津地区は女性が元気でとても積極的。ワークショップにおいても率先して意見を述べていた。

今後の活動では

- ・船の文化？餅まきに集まる老若男女

船の文化の名残か、落成式の行事等で餅まきがあると聞けば、情報が口コミで伝わり大勢の人々が喜々として、餅ひろいに参加する。今後の活動において、この特徴を活かしたものが考えられないか。



『餅まきに集まる地域住民』

#### 保育園の参画

浮津保育所は堤防のすぐ脇にあり、浸水時の避難については多くの問題を抱えている。一方まちづくりにおいて園児の参加は、人々を幸せにする。

#### 中学生・高校生の参画

国際交流やスポーツ交流等において、中・高校生は中心的な役割を果たすと共に、災害時の避難においても重要な役割を果たす。今後のみなとまちづくりにおいて、参画を呼び掛けていきたい。

#### 浮津地区全域（奈良師、下町を含む）の参画

今回の調査事業では、浮津西町が主体であったが、浮津下町と奈良師地区はそれぞれ密集市街地の問題、避難通路の問題、浸水の問題など深刻な課題が多い。今後のまちづくり活動においては、浮津地区全域の参画で進める事が望ましい。

### （２）活動のための資金調達

今回の活動においては、本調査の業務委託以外、資金調達は行っていない。

### （３）活動のためのネットワーク支援

#### 高知工科大学

産学連携研究センターと 某社が共同開発中の津波避難施設をワークショップにおいて提示。

#### 高知県住宅企画課

昨年に引き続き当団体（高知NPO）を、調査事業全般に渡りアドバイスをいただいた。今後も継続的に、活動支援をお願いしたい。

#### 室戸市

防災まちづくりにおいては、室戸市との協働が不可欠である。今回の調査においても、総務課が終始相談にのってくれ、予定通りに事業が進行した。今後とも、住民そして当団体と、三位一体でまちづくりに参画してくれることを期待する。

#### 国土交通省の高知港湾 空港整備事務所

浮津地区のまちづくりにおいて、柱になる室津港は、国の直轄港湾であり、今後、継続的な支援を期待したい。今回のワークショップにおいては、室津港のパンフレット等を提供してくれたため、現状把握に役立った。

### （４）その他

今回の調査事業において、「まちづくり」のきっかけをつかむ事が出来ました。関係者並びに、機会を与えて下さった方々に、感謝致します。